

会社概要

日本マネジメント総合研究所 所在地/東京都大田区東矢口2-16-18 クレストビル302▶設立・2003年3月

起業家新時代

日本マネジメント総合研究所

安全・安心・健全な経営を
続けるための仕組みづくりを支援

戸村智憲 理事長 (35)



世界経済のグローバル化に伴い、日本企業は大企業から中堅・中小企業に至るまで激しい経営環境の変化に直面している。日々進化するIT技術や、新たに強制適用される予定の国際会計基準への対応など、経営課題は山積している。余裕のある大企業だけでなく、資金的に余裕のない中小企業にも、グローバル化の波が容赦なく押し寄せる。そんななかで、「どうやって環境変化に適応し、健全に続けられる仕組みを整えていくか」を経営指導しているのが日本マネジメント総合研究所（東京都大田区）だ。

理事長を務める戸村智憲は大学院

卒業後、国連で内部監査専門官として社会人のスタートを切った。その後、民間企業へ転出する機会を得て大手コンサルティング企業でコンサルタントとしての道を歩んだ。しかし、日々の業務のなかで、「営利だけを考えると、医療・福祉介護機関などを考えると、人間が本当に必要とする重要な業種が顧客対象から除外されがち」であることに心を痛めたという。そこで、本当に支援を必要とする企業に経営支援を行えるようにすべきだ、との考えに至り、独立を決意。

2003年3月に日本マネジメント総合研究所を設立。現在は上場企業から中堅中小企業、非営利機関、医療機関、JA長野中央会顧問、生協など幅広く経営指導をしている。創業当初から注力するのが内部統制。企業が収益を上げる過程で粉飾決算などの不正が起きないように管理を強化するもので、06年6月には上場企業の粉飾決算を防ぐために社内体制を自己評価する金融商品取引法（日本版SOX法）が公布されたこともあり、事業は軌道に乗り始めた。

06年6月には、企業経営に関するリスク・マネジメント（エンタープライズ・リスク・マネジメント（ERM））の普及、啓発活動を行う日本ERM協会を設立。入会金も年会費も無料とし、1万6000社の会員企業を集めた。現在は隔月で様々な

リスク・マネジメント関連の勉強会を開催している。

近年、力を入れているのが、戸村が提唱する「監査コミュニケーション技法」の伝授だ。「監査というのは、どうしても「上から目線」で威圧的に行う傾向が強くなります。それでは社員が萎縮してしまいます。監査の技術とコーチングや心理学の手法を融合させ、監査される社員も納得し、監査のあり方自体も健全にするように努めています」という。

たとえば、顧客情報が入ったパソコンの外部持ち出しは情報漏洩の観点から禁止している企業が多い。「なぜ禁止されているか、それがどんな影響を及ぼすからダメなのか、社員が腑に落ちる形で監査指導・是正支援を行うのです」。

もう一つは新たなIT革命といわれているクラウド・コンピューティングの活用だ。「外部のIT資産を低コストで借りて、賢く使うことで、コスト削減しながらITの高度化が可能です。健全なクラウドの活用方法とリスク対応を指導しています」。

さらに、国際会計基準（IFRS）への対応にも注力する。

15〜16年に強制適用が予定されているIFRSが、経営や日常業務にどう影響するか、具体的な事例でひもといていく。たとえば製造業なら、設計、開発、製造、販売からアフタ

ーサービスの一連の業務の流れのなかで、新しい会計基準がどう影響するか図解したものを例示し、各部門が全社プロジェクトとして連携して対応できる方法を指導しているという。

アカデミズムとの橋渡し役も

企業へのコンサルティングと並行して、戸村が力を入れているのが学術的な研究と実際の経営実務を結びつける取り組み。

「大学で研究されている経営学や監査論などは、現場を知らない教授たちが机上の空論を躍らせているケースが多くあります。経営の現場で本当に役に立つ経営学・監査論としての学術振興を行うのも私の役目です」という。戸村は、コンサル会社の経営を行う一方、産能大学で兼任講師を務めており、「アカデミズムと実務の橋渡し役を担い、実践で役立つ学問とは何かを追究していきたい」という。（敬称略、編集部）

会員募集中



企画協力

毎日起業家クラブ

〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
TEL.03(3213)3070 FAX.03(3213)2838